

日
刊

新東京

N03696

2004年10月7日(木)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

「平成16年度年末始郵便業務推進計画」 の地方提示と対処について

東京支社は地本に対し、「平成16年度年末始郵便業務推進計画」について提示してきました。

東京支社は、ゆうパックリニューアル実施後初めて迎える年末始であり、命運をかけた勝負の年、極めて重要な年末始繁忙期であること、従来にもまして事業運営に万全を期す事が重要であるとしています。

今期年末始は、郵政民営化論議の真っ只中に迎える事もあり、多くの国民の皆さんから注目された年であること。アクションプランの最終年度の「真っ向勝負の年」として年末年始における業務運行において、お客様のニーズに即したサービスの提供をするとともに、業務改革を成し遂げる必要があるとしています。

今期の取扱い予想物数については年賀、通常郵便は昨年に引き続きマイナスの予想を立てており、小包郵便物については配達関係で微増、引き受けについては、対前年度実績の136.6%の予想としています。

また、今年年末始郵便事業推進計画では、①サービスアップの観点からの1月2日配達復活②業務運行に係わる10%のコスト削減③お歳暮小包を中心とした事故のない安定した業務運行の確保④年賀処理にJPSを取り入れ、年賀処理に係わる労働時間10%以上の削減⑤ゆうパックリニューアルの定着など職員一丸となって取り組んで行くとしています。

(東京地本小川委員長あいさつ)

今年もまた、注目される年末始繁忙の時期を迎えました。このところ数年間、今年は特別の年と言いつけてきたように思います。郵便局にはこれからどうなるのか、ということが世間の関心事です。郵政民営化の基本方針が閣議決定され、内閣改造も目前です。今後の法案作成・国会論議の過程で、郵政事業についての議論が広く展開されます。我々が、現在の郵政公社の経営形態とその機能を守る立場で努力を続けることはいうまでもありません。

そこで今日の事業環境を踏まえて、我々が努力すべき課題について申し上げてみたいと思います。対外的には、郵便局に対する社会的な評価を高めることに尽きます。仕事を通じて、郵便局への信頼と期待にしっかりと応え、これまで以上に好感の持てる郵便局にする努力が必要です。

また、公社内部的にも、幅の広い改革の努力を継続する必要があります。効率化等による収支改善の努力を全面的に進めることも課題の一つです。同時に、利用者ニーズに応えたサービスの改善や新商品の開発のために、現場の努力(知恵)をどう活かすかと言う事が問われています。現実、なかなかそうはなっていないようです。

例えば、JPSについて申し上げます。私自身もスピードある改革、連続的な改革の必要性に異論はありません。しかし、理解と納得づくで見直しを進めるという努力が不足しています。どうしても、上意下達の従来手法です。だから、JPSも表面的な取り繕いだけ、という印象をぬぐいきれません。これでは職場に一体感生まれません。年末始繁忙期の施策についても、本社の意気込みが郵便局の実態と食い違った認識から出発していたとしたら、期待する結果は得られません。本社と現場の間に、ちぐはぐな状況ができないように、支社にはこれを調整する機能が求められています。当然、労働組合もこうした食い違いが生じないための努力を進めることはいうまでもありません。ゆうパックリニューアルについても重い位置付けを持って進められる以上、実態的にやっつけける計画とするための慎重な検討がなされなければなりません。

最後に、職員(=組合員)が萎縮したり失望したりすることなく、働き甲斐を感じ、将来への希望の持てる状態であってはじめて、仕事上の力の発揮も可能です。現場の期待に応えられるように、実態を踏まえた交渉を進めて、しっかりとした計画を固めて欲しいと思います。

以上、支社に対しての小川委員長の挨拶です

**現在、深夜勤導入後のアンケート実施中です。
労働条件改善に向けて、自由欄にどしどし意見を
書いてください。
また、ゆうパックリニューアルの問題点を集約する
ので、意見を上げて下さい。**

日
刊

新東京

NO 3698

2004年10月/2日(火)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

寺尾判決・狭山再審請求関連 中央総決起集会、及び街宣行動へ参加しよう！

狭山事件の第2次再審を求める闘いは、東京高裁による不当な再審棄却決定と異議申し立て棄却決定により、最高裁判所の特別抗告審の段階に入り既に2年半が経過しました。この間、狭山再審弁護団は多くの新証拠・鑑定について事実調べを強く要求してきましたが、1974年10月31日の寺尾判決以来30年間、1度も行われてきませんでした。こうした30年という節目の時期、全力で以下の取り組みを行います。ご協力をお願いします。

「寺尾判決30周年糾弾・狭山再審請求・
特別抗告審闘争勝利、中央総決起集会」

日時 ; 10月29日(金)13:00～

場所 ; 日比谷野外音楽堂
(終了後デモ行進あり)

狭山事件ってなに…？

1963年に狭山市で起こった女子高生誘拐殺害事件です。身代金引き渡し時に警察が真犯人を取り逃がし、その後女子高生は殺害されて発見されました。警察は犯人逮捕に躍起になり、部落出身なら地域住民も差別意識から納得するという事で1人の青年を微罪で別件逮捕し、そのまま自供したという事で本件逮捕したそうです。これが事実だとすれば、これは、部落差別とえん罪が隠れた人権侵害に関わる大きな社会問題です。その青年は61歳になった今でも、仮出獄という立場で見えない鎖につながれたままです。

第五福竜丸展示館「手紙展」のご案内！

第五福竜丸展示館ボランティアと申します。お知らせするのが、すっかり遅くなってしまったのですが、9月23日より10月17日まで「手紙」の特別展示を開催しております。手紙といえ、みなさまともしっかりもご縁の深いものですのに…。みなさまご多忙の折とは存じますが、ぜひ足をお運びくださいますようご案内申し上げます。

漁船第五福竜丸は、1954年3月1日に太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で行なわれたアメリカの水爆実験により、「死の灰」をあびて被災しました。半年後の9月23日、無線長の久保山愛吉さんが亡くなりました。

闘病中から死去ののちも、久保山さんと家族の元にはお見舞、励まし、哀悼の手紙が寄せられました。久保山愛吉さんの50年目の命日にあたり、第五福竜丸平和協会が所蔵する3000通の手紙より特別展示をおこないます。

北海道新聞が取材したものが、10月2日付東京新聞にも掲載されたので、或いはご存知かもしれませんが、50年前の「洞爺丸台風(青函連絡船5隻が沈没した大惨事です)」で沈没した洞爺丸に乗せられた手紙が、函館郵便局に回収され、乾かしたのち、久保山さんが入院していた病院へ届けられたことが、このたび展示の準備を進める中で判明しました。

郵袋の耐水性のおかげなのか、手紙はさしてしみもなく判読可能です。郵便局の方の丁寧な対応に、感動しております。久保山さんの死の直後に書かれた手紙が、1ヵ月後に御遺族に渡った…。「数奇な運命さえ感じる」と、作業にあたったスタッフも来館される方も感想をおっしゃっています。

このような災害に遭遇した手紙類というのは、現在ではどのように取り扱われるものなのでしょうか？たとえば、そんなお話をお聞かせいただけましたら幸甚です。

(支部に寄せられたメールより)

ビキニ水爆実験被災50年記念事業

特別展手紙—託された心

～久保山愛吉さんと家族に寄せられた手紙より

9月23日～10月17日 入場無料(9:30～16:00)

第五福竜丸展示館 ボランティアの会

アクセス：東京都立第五福竜丸展示館

江東区夢の島3-2 夢の島公園内

HP : 福竜丸 <fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp>

●新木場駅下車、徒歩10分

●東陽町駅から都バス新木場行き
「夢の島公園」下車徒歩3分

日 刊

新東京

NO. 700

2004年
10月14日(木)

日本郵政公社
労働組合
新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

ゆうパックスのリニューアルも大切だけど
局舎のリニューアルもしないと大変だ

十月九日に上陸した台風二十二号すごかったですね。
関東圏に今まで上陸した台風の中では一番強い台風だ
そうで、雨・風が すごく東京ではあちこち道路が冠水
したり大変だったようです。

ちなみに私、この日深夜勤2で出勤できるか心配だっ
たのですが、日頃の行いが良かったのか午後8時ぐらい
になったら、あれだけ凄かった雨と風ピタリとやんで無
事出勤することが来ました。

ただ、三階の小包の職場に行つてビックリしました、
あちこちにバケツやらケースが置いてあり、第三小包課

の副課長席の上には青いシートがテントのように張って
ありました。(数日前の大雨のときは第二小包課にも青
いシートが)全部雨漏りしている場所でした。

夜中に雨漏りをしている場所を調べたら二十数カ所あ
つたようです。

新東京郵便局ができて十五年ほど経っています、局舎
のメンテナンスをしっかりとやっておかないとお客様から
預かった大切な小包を雨漏りで濡らしたら大変ですよ。



新東京

NO 3701

2004年
10月15日(金)日本郵政公社
労働組合
新東京支部
編集委員会03-5690-2847
内線 4163

「一般書留」も「簡易書留」もバーコードを入力すると

事故はなくなるはずでは……

特殊郵便部では、以前は一般書留のバーコードだけを入力し、簡易書留は査数のみで差し立てていた。現在は、一般書留も簡易書留もバーコード入力している。

変更になった時の話では、これで、全ての書留郵便物が追跡できるようになるため、たとえば、もし一本マイナスであったとしても、探す必要はなく、そ

のまま差し立てれば良いという事だった。そして、全ての郵便物の番号をどこかで管理している、そこで、「引きうけたものの、配達されていない」郵便物があるという情報が出てこない限り、事故にはならないという話だった。

ところがそれから半年以上がたった今、相変わらず、差し立て時間ぎりぎりだろうが、数が合わないとなれば、ケースや郵

袋を開けている。
しかも、それでも見つからなかった時には、各課で事故調査もしている。

これでは、簡易書留もバーコード入力するという作業がムダなだけである。

全部入力して、なおかつ受けと出の数を合わせなければならなかったため、作業の速度はおちざるをえない。

結局、差し立て時間ぎりぎりに終わるところか、時間になっても終わらないという事態が発生している。

現状では、簡易書留をも入力するメリットは何なのか、全然わからない。

これは失敗だったと思うのですが、どうでしょう。

(投稿)

日
刊

新東京

NO3702

2004年10月18日(月)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

郵便窓口課は悲鳴を上げています！

冊子小包の大幅な増加に加え、慢性的な人手不足により郵便窓口課は混乱状態にあります。今の状態で業務を運行すること自体、無理があるように思われますが、要員不足は至る所で弊害を生じています。例えば、佐川急便が持ち込んだ冊子小包は、平日は二階作業場で引受検査をしています。検査を終えて窓口カウンターに持ち込まれた数百件ののぼる後納票は、チェックする要員がいないため、たいていがカウンター担当者任せになっています。その影響で夕方からの窓口の混み具合は異常なまでになっており、常時七、八人のお客さまがしびれを切らしめて待っています。職員もゆうメイトも毎日超勤で対応していますが、正確な引受検査（特に後納郵便物）や、迅速な交付処理はもはや限界に近いものがあります。また、郵便窓口課は、電子内容証明郵便物を作成していますが、深夜勤担当者が仕事を終える六時から、日勤が担務につく九時までの三時間は電子内容証明郵便物には誰もいません。ですから大口が入った場合は垂れ流し状態になり、紙詰まり等で機械が停止していても誰も気がつきません。また、六時になれば深2勤務の担当者二名は私書箱室へ移動するので、八時半までの間は大口窓口には職員がいません。管理者（副課長）、あるいは課長代理（代行）が勤務していますが、カウンター業務ができないため、その時間に窓口にお客さまが来ると電話で呼ばれることとなります。八時には私書箱の交付が始まりますので、一番忙しい時間帯にかなり厳しいものがあります。実際に何度もその時間帯にお客さまがみえており、私書箱の業務を中断せざる得ないことがしばしばあり、勤務終了時間にも影響をきたしています。業務の流れとサービス表がまったくかみ合っていないことも起因していますが、言えばキリがありません。要するにギリギリの綱渡り状態で業務を回しているというのが現状です。今、突発欠務者が出たらどうにもなりません。適正な要員配置は急務と考えます。

平成16年度年末始 繁忙手当妥結

本部は、平成16年度年末始繁忙手当について、早期決着に向けて交渉を継続してきました。

その結果、昨年と同様の考え方とする提案があり、以下のとおり整理を図りました。

	定 額	時間外割増
郵便関係	1,250円	323円
再任用	625円	156円
短時間	625円	156円
共 通	635円	175円

※郵便内務事務に従事する職員は、定額に35円、時間外割増額に8円加算する。

(定額)

正規の勤務時間が割り振られている日において、正規の勤務時間を、実際に勤務した場合に、当該勤務日1日（前日から引き続きその翌日につながる勤務に従事した場合は当該勤務指定日の勤務1回）につき支給する。

ただし、実際に勤務した時間が正規の勤務時間の2分の1に満たないときは、その額の6割相当する額とする。

(時間外割増手当)

当該勤務日において、時間外勤務に従事したとき、その時間外勤務を行った時間1時間につき支給する。

また、週休日または非番日に実際に勤務した場合は、その勤務した時間1時間につき支給する。

※正規の勤務時間中に2以上の業務に従事した場合は、その従事した時間が最も長い業務により支給する。

《特別繁忙手当の特例》

- 12月29、30日・・・1,400円(840円)
- 12月31日・・・1,500円(900円)
- 1月1、2、3日・・・1,600円(960円)

()内は短時間職員

平成17年1月1日から同月3日までの期間を連続して勤務する職員に対する年末年始特別繁忙手当の特例措置について

平成16年度限りの特例措置

1. 支給範囲

郵便局に勤務する職員が、郵便事業に従事するために三が日の全日正規に割り振られた勤務時間のすべてを実際に勤務したときに支給する。

なお、深夜勤等暦日をまたぐ勤務については、三が日に指定された勤務を対象とする。

2. 支給額

(1) 職員(再任用職員のうち短時間勤務Ⅱ型職員及び郵政短時間職員を除く。)に対する支給額は、1,000円とする。

(2) 再任用職員のうち短時間勤務Ⅱ型職員及び郵政短時間職員に対する支給額は、500円とする。

3. 支給日は、平成17年1月18日とする。

日
刊

新東京

NO 3705

2004年10月2日(木)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

綾瀬局の業務混乱中！

翌日配達エリアの拡大等に伴う
郵便物送付先の見直しについて

公社は、本部に対して、九州支社管内の一部地域から翌々配達となる東京・関東支社管内一部地域宛の小包及び通常郵便物について、綾瀬局経由で計画していたが、新東京局経由に変更する旨の計画変更を提示してきた。実施日は、11月1日。要員に変化はないが、実施後に必要な場合は賃金措置を行うとしている。

【変更内容】

引受地	あて地	当初継越局	変更継越局
80～84	26、28、29、30～32、37	綾瀬	新東京
85～87	18～20、神奈川県以外の関東・南関東管内	綾瀬	新東京

* 変更理由 当該郵便物は綾瀬局に午前11時から12時30分の間に6便到着するが、配達地域区分局あて運送便が夜までなく、約10時間綾瀬局で保管することとなり、配達地域区分局の安定した業務運行を確保するため。

当初の計画と今回の見直しとなる経過について、公社としてのきちんとした説明が不十分であると言わざるを得ません。綾瀬局の結節局化は、翌日配達にかかるもののみが綾瀬局送付となり、それ以外は従来通りとの説明でした。今回見直しとなる部分は、翌々配達となる対象郵便物であり、綾瀬局送付となり、新東京が減となる物量から算出された要員措置の当初説明の根拠は、どうだったのか強い疑問が生じます。

地本交渉部の情報によれば、見直しにより小包800個、継越パレットケース(大型)100ケースが新東京に送付されることが想定されています。新東京局経由とすることにより、綾瀬局に運送便がなく、10時間保管されて各区分局に早朝に集中したものが、当日の夕方から深夜にかけて到着させて平準化をはかることができ、関東・南関東管内の救済となるとのことです。地本としても、今回の見直しの問題点は強く指摘するとともに、 <裏面につづく>

<表面よりつづく>

新東京の要員状況や業務運行の検証をし、本部や支社へ対応策を求めつつ、あわせて、年末始の業務増の対策も強く求めていきたいとしています。また、今後、このような事態が発生しないよう強く要請していくと支部に対して説明してきました。

支部業対会議で出された発言で、綾瀬局から何の断りもなく、その日に配達希望とする小包が新東京に到着し、結束時間外であり、どうなっているのか、綾瀬局に連絡をしたところ、“すみません、業務が混乱して大変な状況なんです”と言われた話が紹介されました。この間、運送便ダイヤ設定では、調整が不十分なままの施策実施によって、そのしわ寄せに現場は、苦勞させられることが多々あります。現場第一線を支援する支社・本社であって欲しいものです。

10・11月の組合の行動予定

10/24(日)

JPU東京青年部主催『フィールドファイトⅢ』
外濠公園野球場にて、9:00～

／25(月)

JPU東京主催総分会書記長研修会
教育会館にて、14:00～

／26(火)

第2回支部執行委員会
5階研修室にて、12:00～

11 /4(木)

第1回組織拡大対策会議
5階研修室にて、15:45～

11 /13(土)

JPU東京主催上席・課長代理研修会
五反田ゆうぽうとにて、14:00～



日
刊

新東京

NO3707

2004年10月25日(月)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

03-5690-2847

内線 4163

ローソン取集便の設定及びOneDay, OverNight サービスの取扱い地域の拡大…に不安

東京支社は、ゆうパックリニューアルにおける新規サービスのコンビニ（ローソン）取集の具体的な考え方について説明をしてきました。

これまで「OneDay」「OverNight」サービスの取り扱いについては、東京都区内の指定された郵便局・取次所に引き受けされたゆうパックを対象として翌日及び当日の配達を行うものとなっていました。ローソンからの要請もあって「ゆうパックリニューアル公社報道発表」の中で「東京都から差し出されたゆうパックを対象」という内容に変更となり、あらたに多摩地域も対象としたサービスの拡大にするとしています。

また、実施日については11月18日0時からローソン店舗の引き受けを郵便局で取り扱い開始となります。そのため、試行実地訓練として11月15日から17日まで取集便のコンビニ各店舗立ち寄り等を実施していく事としています。

詳細は裏側にあります。

しかし現状の小包の処理を見ると「OneDay」「OverNight」も不安が残るのは私だけではないと思います。

「OneDay」「OverNight」のゆうパックは、なかなか見た目では判りません。シールが存在するのですが、今までに見たのがほんの数個です。未だに体制は整ってないと言わざるをえません。配達局ではどれが「OneDay」「OverNight」なのか判別出来ずに困っていると思います。

「OneDay」「OverNight」の差立便には、出来ているパレットは載せてしまいます。パレットに表示は貼るのですが、どれが「OneDay」「OverNight」かは判らないと思います。

ローソンとの業務提携は、失敗が許されない施策となります。私たちも知恵を出し、予想される問題点を考えて行きたいと思っています。

OneDay、OverNightサービスの取扱地域等の拡大について

1 趣旨

現在、東京23区内の郵便局(24時間引受局)で取り扱っている、OneDay、OverNightサービスに関し、多摩地域所在の郵便局(24時間引受局)及びコンビニエンスストア(公社が指定したゆうパック取扱所)についても取扱いを開始する。

2 実施月日

平成16年11月18日(木)

なお、平成16年11月15日(月)から同年11月17日(水)までの期間、取集便の実地訓練としてコンビニ各店舗等への立ち寄り等を行う。

3 取扱郵便局等

(1) 郵便局

立川郵便局、武蔵野郵便局、武蔵府中郵便、調布郵便局、三鷹郵便局、多摩郵便局、八王子郵便局、町田郵便局、八王子西郵便局及び八王子南郵便局(10局)

(2) コンビニエンスストア

管内所在のローソン各店舗

4 取集方法等

(1) 取集方法

取集委託受託者が取集する。

ア 都区内所在エリア

日本郵便通送(株)東京統轄支店

イ 多摩地域所在エリア

関東郵便輸送(株)

(2) 取集郵便物の処理

ア 都区内所在エリア

ブロック別にコース設定したローソン店舗を前記取集受託者が巡回し、ローソン店舗から取集した小包郵便物を指定の集配郵便局に持ち込む。当該局は、自局窓口で引き受けたOneDay、OverNight扱いの小包郵便物等と一緒に積み込み、新東京郵便局へ運送便で送付する。

イ 多摩地域所在エリア

ブロック別にコース設定したローソン店舗を前記取集受託者が巡回し、ローソン店舗から取集した小包郵便物を取集車に積載したまま、前記10局に立ち寄り、当該局の窓口で引き受けたOneDay、OverNight扱いの小包郵便物等を当該車両に積み込み、東京多摩郵便局へ持ち込む(運送便による送付は行わない)。



新東京

NO 3708

2004年
10月26日(火)

日本郵政公社
労働組合
新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

2普分会では、一〇月二三日(土)分会会議を開催しました。新年度の分会体制は昨年通りでスタートします。

会議の議題はなんと言っても年末における特割冊子小包、佐川から持ち込まれる冊子小包の処理・非常勤の要員。そしてJPSです。

大きな声では
言えませんが・・・

要員増のないまま冊子を扱うことになったのが2月。4月には大口割引率を上げました。それ以降急激に郵便物が増えてき

ています。

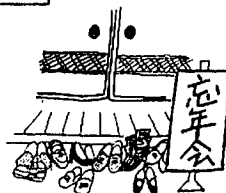
各課の応援はもとより、自課非常勤の超勤は日常茶飯事となり、9月などは告一以上の応援がないのは月曜日くらいでした。この傾向は10月に入っても変わらず、11月、12月にはどうもなっていくのか心配です。もちろん、特割冊子といえども計画処理が出来ないぐらいの量ですから翌配郵便物には多大な影響があります。大きな声では言えませんが結果は出来ているのでしょうか？

J P S . . . 不安

このような職場の現状でありながら、11月からJPSの原単位作業として棚区分の裏抜きを廃止した作業を実施するとしています。詳細は後日報告しますが、職場では全員年末業務に大変不安を感じています。



忘年会に参加を



昨年、非常勤の皆さんと忘年会を開催し、大変盛況でした。今年も是非という声もあり、企画進行中です。

分会の皆さん、非常勤の皆さん是非御参加下さい。

新東京

NO 3711

2004年
10月29日(金)

日本郵政公社
労働組合
新東京支部
編集委員会

03-5690-2847
内線 4163

地本青年部主催レク

フィールドフアイトⅢ 開催!!

10月24日(日)に、四ツ谷の外濠公園において地本青年部主催のフィールドフアイトが行われました。少し肌寒い中でしたが、東京全体から約300名もの参加者が集まりました。盛大に開会式が行われ、いよいよ競技開始です。

第一種目は玉入れで、わが新東京支部は全20チーム中、2位という好成績でスタートを切ることができました。続く障害物リレーでも1位を獲り、午前の部を1位タイで折り返すことができました。

楽しく昼食をとった後、午後の部の開始です。午後の最初の競技は綱引きでした。ところがこの綱引きで一回戦負けを喫してしまい、午前とはうってかわって最悪のスタートを切る事になってしまいました。次のドッジボールも一回戦で惜敗してしまい、優勝するには厳しい状況に追い込まれてしまいました。全ては最後の支部対抗リレーに懸かっています。いよいよ運命のスタート! だったのですが、第一走者がスタートを失敗してしまっただけです。が! 前を走っていた二選手が転倒し、

一気に二位へ浮上！第二走者がそのまま順位をキープし、バトンは第三走者へ！ここからが勝負！と思ったのですが、我々の期待はもろくも崩れ去る結果となりました。アンカーも年齢とは裏腹に重い走りで、結局3位でゴール。総合で14位という成績で競技が終了しました。

厳しい勤務の中、支部で14名の方の参加がありました。

この企画は、地本主催で、毎年開催される予定です。来年こそは優勝を目指したいと思いますので、多くの

組合員の方々、その家族の方々の参加をお待ちしています。



書き損じはがき、プルタブは支部まで！

新東京支部から始まった『プルタブ』回収は、東京地本青年部の取り組みにまで拡大しました。アルミ工場に直接買い取ってもらい、その売上で車椅子を購入し、福祉施設に送る、という運動です。

どちらも皆さんの『小さな善意』でできる運動です。

組合員の皆様のご協力をお願いします。

